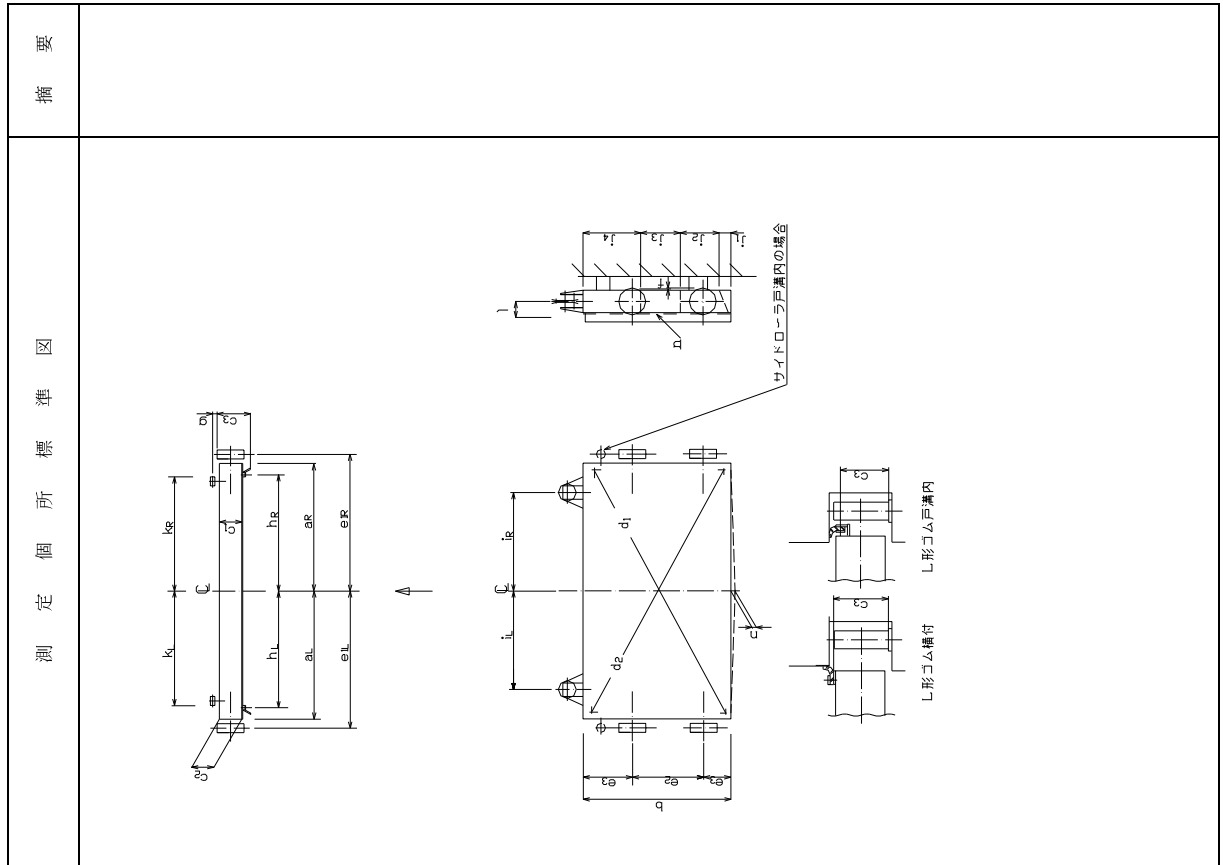


第 2 編 設備別編

第 1 章 水門設備

第1節 直接測定による出来形管理
 1. 河川・水路用水門設備
 (1) 三方水密ローラゲート

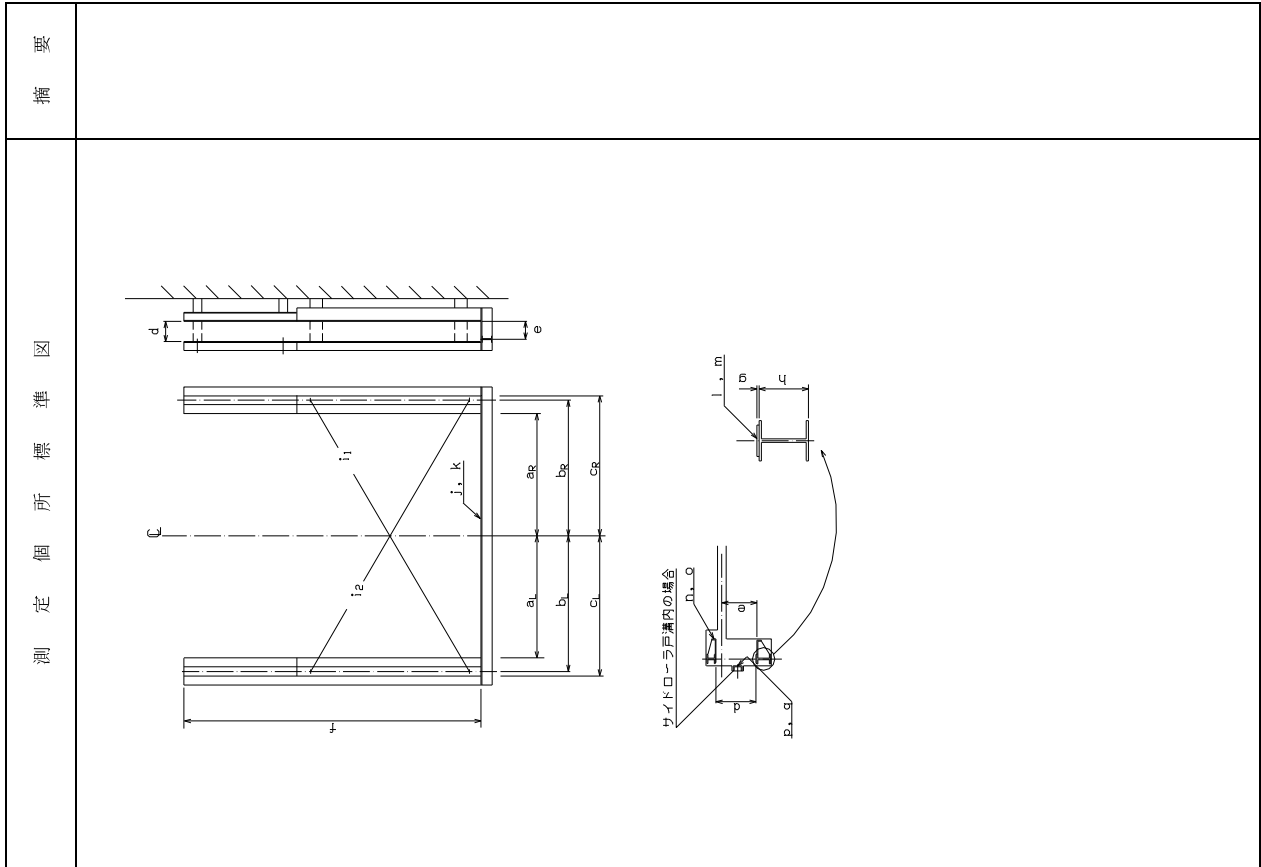
工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(製作)	A	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側計測に必要なら空 間を確保する。		
		扉体の全幅 (a ₁ , a ₂)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		主桁の高さ (c)	H < 0.5 ± 2 0.5 ≤ H < 1.0 ± 3 1.0 ≤ H ± 4	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で 測定する。 H: 腹板高(m)
	A	端桁の高さ (c ₂)		左右各2箇所を鋼製巻尺で測定す る。
	A	水密ゴム受座 面から主ロー ラ踏面までの 距離(c ₃)	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。 (L形ゴム戸溝内タイプ) 左右上・中・下3箇所をレベルと金属製直尺等で測 定する。
	A	基準点对角長 の差(d)	1 0	鋼製巻尺で測定する。 (d = d ₁ - d ₂)
	A	主ローラの支 間(e ₁ , e ₂)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ中心 間距離(e ₂)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラから 扉体下端まで の距離(e ₃)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面 の偏差(f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	主ローラ踏面 からサイドロ ーラまでの距 離(g)	± 5	上下左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定す る。
	B	水密幅 (h ₁ , h ₂)	+ 5, - 3	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2 m毎に鋼製巻尺で測定 する。(2 m以下の場合には上下各1箇所測定する。) (L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2 m毎に鋼製巻尺で測定 する。(2 m以下の場合には上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物(シー ブ)中心間距 離(i ₁ , i ₂)	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁間隔(j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
B	サイドローラ 踏面間距離 (k ₁ , k ₂)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
B	吊金物(シー ブ)中心とス キンプレート 間の距離(1)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	



測 定 個 所 標 準 図		摘 要

工 種	1. 扉体	測 定 基 準	管理基準値 (mm)	項 目	分 類
	水 側 設 備	レベル、金属製直尺等で測定する。 dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで 測定する。 小形水門：扉体面積1.0㎡未満 中形水門：扉体面積1.0㎡以上5.0㎡未満 大形水門：扉体面積5.0㎡以上	±3	底部の曲がり (m)	A
				扉体の平面度 (n)	Δ
水側設備 1. 河川・水路用水側設備 (1)三方ローゲート(製作)					

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (製作)	戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。 (L形ゴム横付タイプ)			
		A	純径間 (a _l , a _r)	+3, -5 ±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 (L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 板中心間距離 (b _l , b _r)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	サイドローラ 踏面間距離 (c _l , c _r)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	主ローラ踏面 とフロントロ ーラ踏面間距 離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	側部戸当りと 底部戸当りと の関係位置 (e)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	戸当り高さ (f)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 板の厚さ (g)	B, H < 0.5 ±2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ±3	上下各1箇所をノギスで測定 する。 B: 77が、幅(m) H: 板板高(m) 尺で測定する。
		A	主ローラレ ール桁高さ (h)	1.0 ≤ B, H ±4	上下中央各1箇所を金属製直 尺で測定する。
		A	基準点間の対 角線の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 (i = i ₁ - i ₂)
		A	底部戸当り表 面の平面度 (j)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。
		A	底部戸当り表 面の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 板の真直度 (l)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分) の許容差を示す。 測定する。 () 内数値は重構造部 (水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	主ローラ踏面 板の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	側部水密面の 真直度 (n)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)
		A	側部水密面の 平面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。
		B	サイドローラ 踏面の真直度 (p)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)



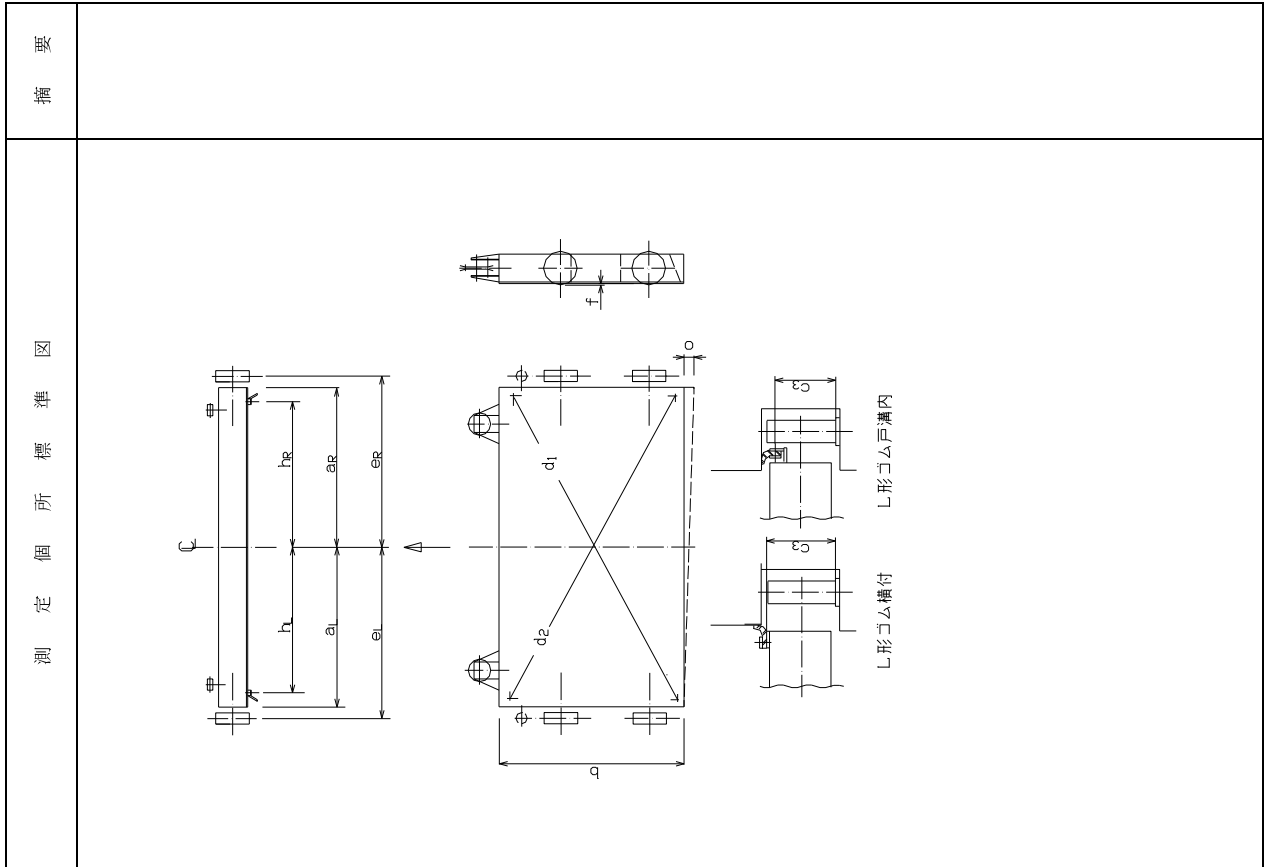
摘要

工 種	分 類	項 目	管 理 基 準 値 (mm)	測 定 基 準
水 門 設 備	B	サイドローラ 跡面の平面度 (q)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
		1. 開閉装置		
		(5)開閉装置寸法による。		

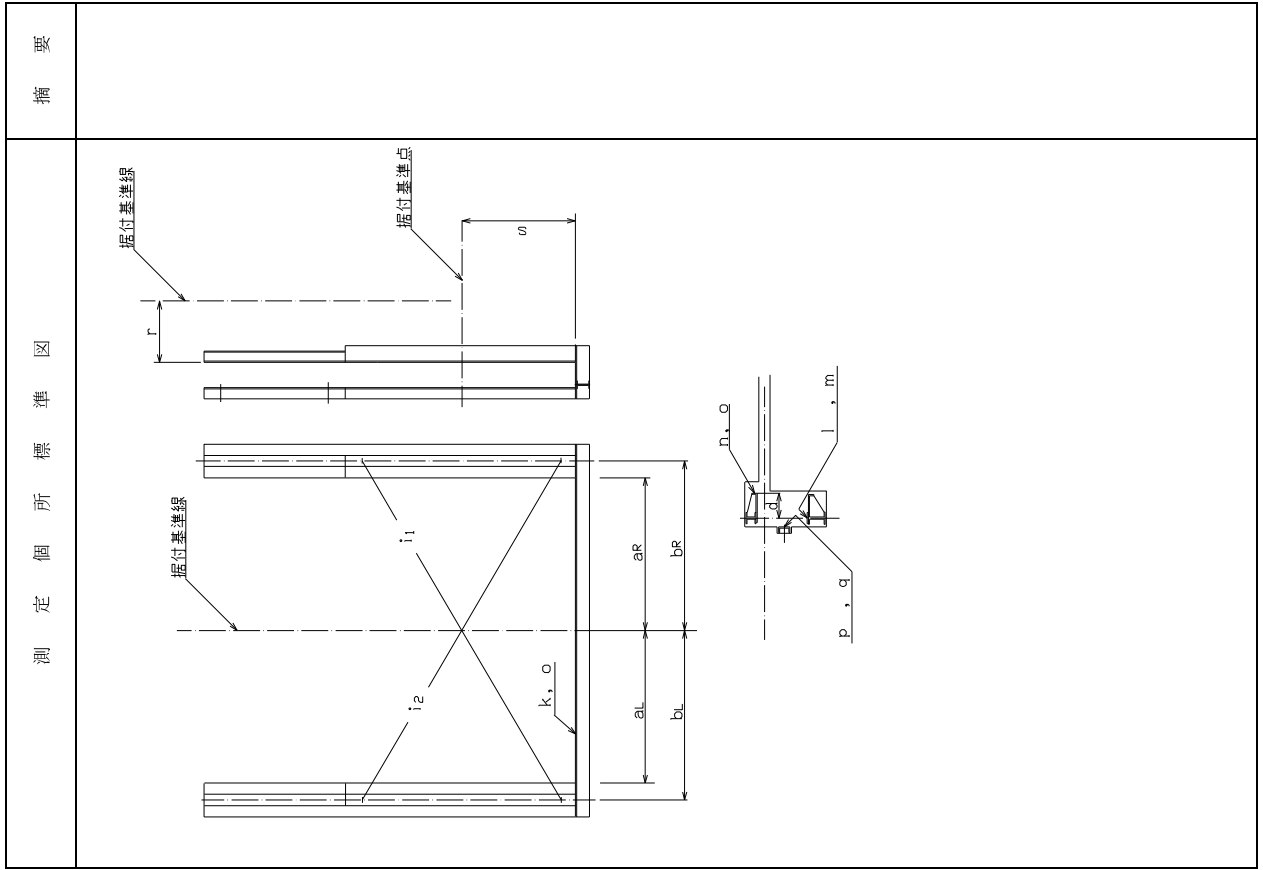
1. 河川・水路用水門設備 (1)三方水密ローラゲート(製作)

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
1. 扉体 水門設備 1. 河川・水路用 水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(据付)	B	扉体の全幅 (a_1, a_2)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの 距離 (c)	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
			$+5, -3$	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左右各3箇所(上・中・下)をレベルと金属製直尺等で測定する。
			10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
	A	基準点対角長 の差 (d)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラの支 間 (e_1, e_2)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面 の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、鋼製巻尺等で測定する。
	B	水密幅 (h_1, h_2)	$+5, -3$	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
			± 5	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	A	扉体の傾き (o)	± 5	全開前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)

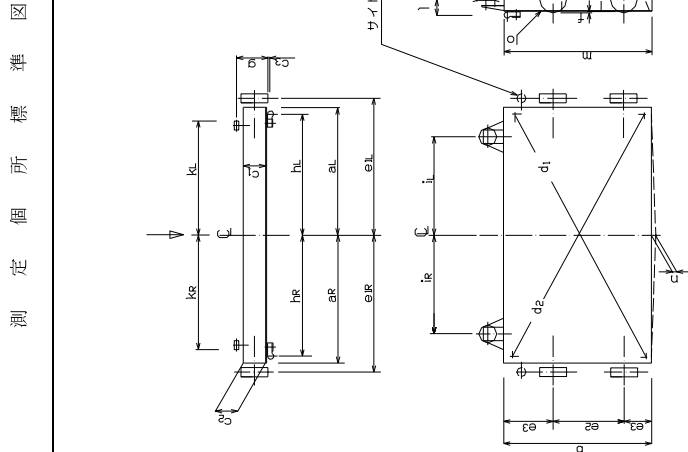


工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
2. 戸当り 水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (I) 三方水密ローラゲート (据付)	A	純空間 (a ₁ , a ₂)	+3, -5	(L形ゴム据付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
			±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面板中心間距離 (b ₁ , b ₂)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	主ローラ踏面板とフロートローラ踏面板間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	基準点間の対角長の差 (i)	10	鋼製巻尺で1箇所を測定する。 (i = i ₁ - i ₂)
	A	水密面の水平度 (k)	2	水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	A	主ローラ踏面板の鉛直度 (1)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
	A	主ローラ踏面板の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
	A	水密面の鉛直度 (n)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	A	水密面の平面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規から変位をすきまゲージで測定する。 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	B	サイドローラ踏面の鉛直度 (p)	6 (6)	() 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
	B	サイドローラ踏面の平面度 (q)	2 (3)/m	() 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
B	据付基準線から主ローラ踏面板までの距離 (r)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
B	底部戸当りの標高 (s)	±5	中央部をレベルで測定する。	
3. 開閉装置 (5) 開閉装置寸法による。				



(2) 四方水密ローラゲート

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
1. 扉体	A	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側計測に必要は空 間を確保する。		
		扉体の全幅 (a ₁ , a _p)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		扉体の全高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		主桁の高さ (c ₁)	± 2	桁 1 本につき 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。 H < 0.5 0.5 ≤ H < 1.0 ± 3 1.0 ≤ H ± 4 H : 腹板高(m)
	A	端桁の高さ (c ₂)	± 2	左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	水密ゴム受座 面から主ローラ ラ踏面までの 距離 (c ₃)	± 2	左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点対角長 の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
	A	主ローラの支 間 (e ₁ , e _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ中心 間距離 (e ₂)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラから 扉体下端まで の距離 (e ₃)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面 の幅差 (f)	1	左右各 1 箇所をレベル、鋼製巻尺等で測定する。
	B	主ローラ踏面 からサイドロ ーラまでの距 離 (g)	± 5	上下左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺で測定する。
	B	水密幅 (h ₁ , h _p)	± 5	(P形ゴム) ゴム受座中心間距離を高さ 2 m 毎に鋼製巻尺で 測定する。(2 m 以下の場合には上下各 1 箇所測定 する。)
	B	吊金物 (シー プ) 中心又はラ ック吊心間距 離 (i ₁ , i _p)	± 5	1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	サイドローラ 踏面間距離 (k ₁ , k _p)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	吊金物 (シー プ) 中心又はラ ック吊心とス キンプレート 間の距離 (l)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
B	側部水密高さ (m)	± 5	ゴム受座中心間距離を左右各 1 箇所を鋼製巻尺 で測定する。	
A	底部の曲がり (n)	± 3	レベル、金属製直尺等測定する。	

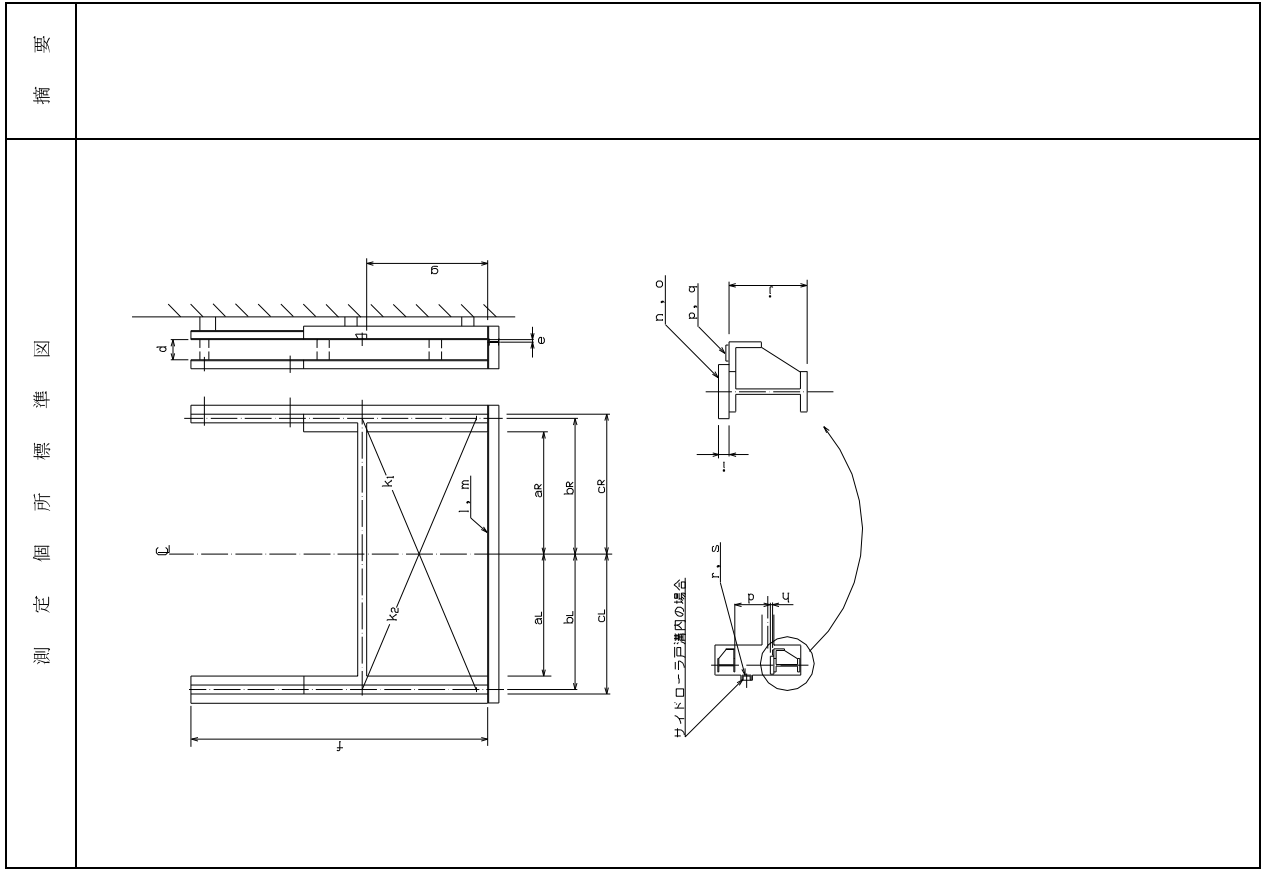


測定箇所標準図 摘要

工 種 1. 扉体 水質設備 1. 河川・水路用水質設備 (2) 四方水密ローラケット (製作)	分類 A	項 目 扉体の平面度 (G)	管理基準値 (mm) 小形 3 中形 5 大形 7	測 定 基 準 dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上
--------------------------------------------------------	---------	----------------------	---------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

測 定 個 所 標 準 図	
摘 要	

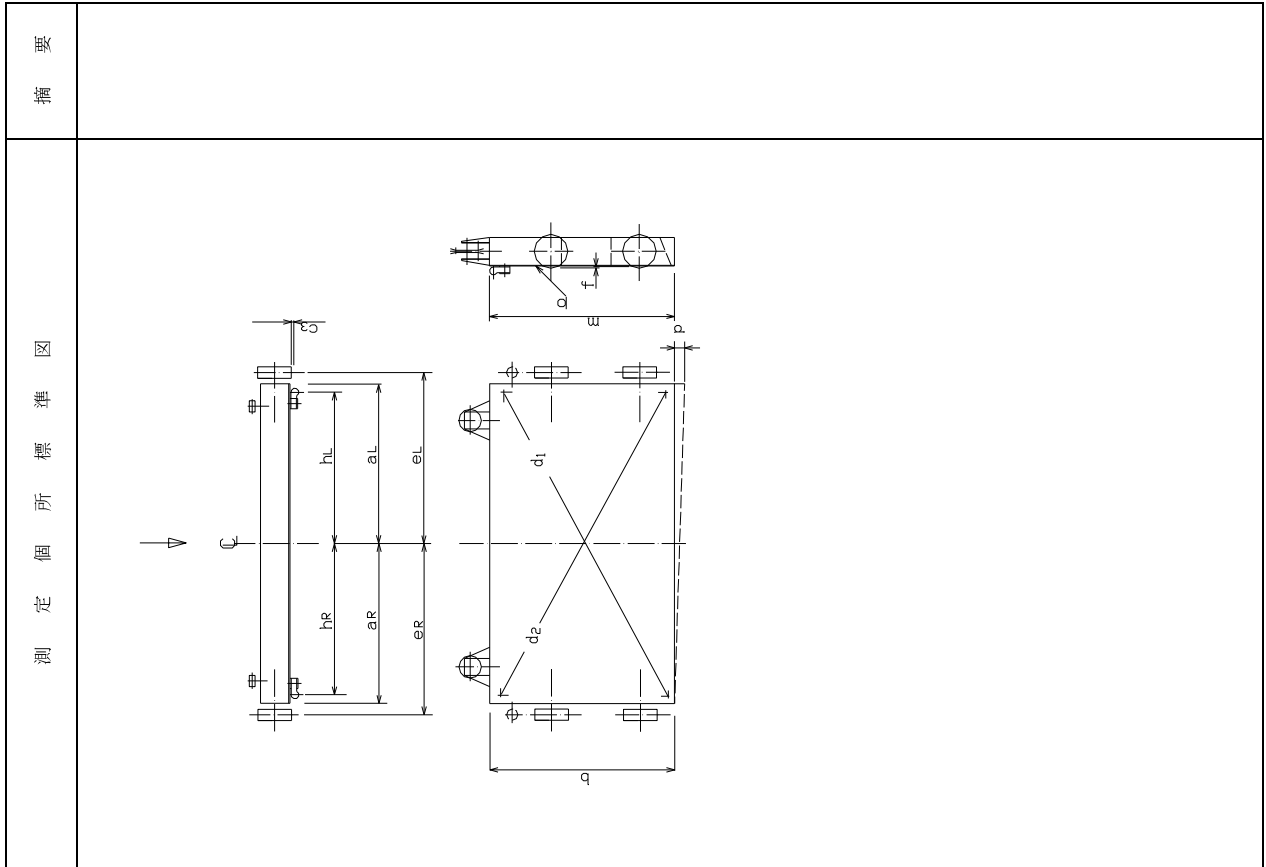
工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
水周設備 1. 河川・水路用水周設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り			原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。	
		A	純径間 (a _v , a _p)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 板中心間距離 (b _v , b _p)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	サイドローラ 踏面板間距離 (c _v , c _p)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	主ローラ踏面 とフロントロ ーラ踏面間距 離 (d)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	側部戸当りと 底部戸当りと の関係位置 (e)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	戸当り高さ (f)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	香口高さ (g)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 板と水密面と の距離 (h)	± 2	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 板の厚さ (i)	± 2 B, H < 0.5 0.5 ≤ B, H < 1.0 ± 3 1.0 ≤ B, H ± 4	上下各1箇所をノギスで測定する。 B: 75が幅(m) H: 腹板高(m)
		A	主ローラレ ール桁高さ (j)	± 4	上下中央各1箇所を金属製巻尺で測定する。
		A	基準点間の対 角長の差 (k)	10 (k = k ₁ - k ₂)	鋼製巻尺で測定する。
		A	底部戸当り表 面の平面度 (l)	1/m	長さ1mの直定規からの変位すきまゲージで測定する。
		A	底部戸当り表 面の真直度 (m)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 板の真直度 (n)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	主ローラ踏面 板の平面度 (o)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。() 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	水密面の真直 度 (p)	2	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
A	水密面の平面 度 (q)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。		



工 種	分 類	項 目	管 理 基 準 値 (mm)	測 定 基 準
戸当り 水筒設備	B	サイドローラ 踏面の真直度 (r)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合には上下各1箇所測定する。)
		サイドローラ 踏面の平面度 (s)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
水筒設備 1. 河川・水路用水筒設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)				

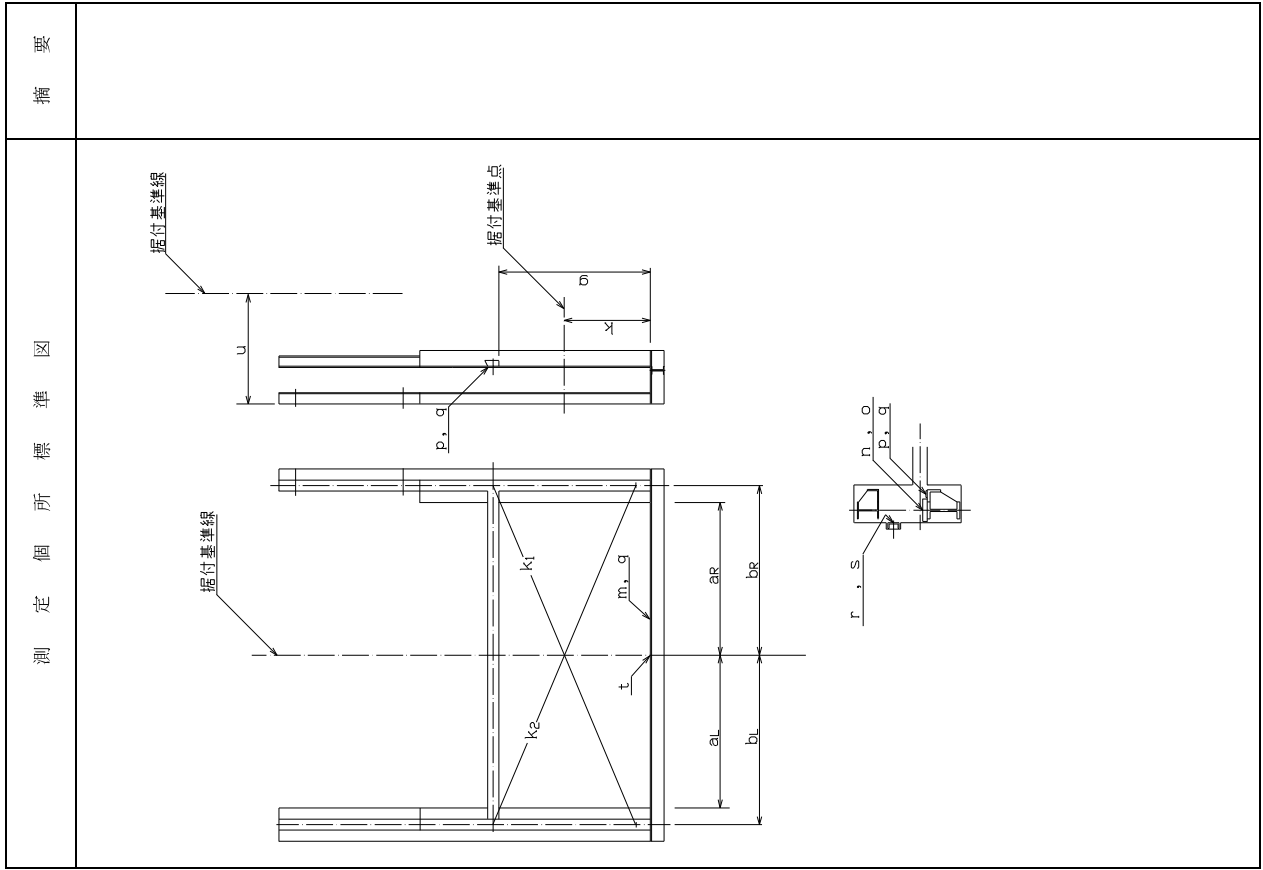
測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密プロダゲート(楕円)	B	扉体の全幅 (a_L, a_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		扉体の全高 (b)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの 距離 (c)	±2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。	
	A	基準点対角長 の差 (d)	10	1箇所を鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_L - d_R $)	
	A	主ローラの支 間 (e_L, e_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面 の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。	
	B	水密幅 (h_L, h_R)	±5	ゴム受座中心間距離を長さ2m毎に鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合には上下各1箇所測定する。)	
	B	側部水密高さ (m)	±5	ゴム受座中心間距離を左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 (現場溶接がある場合)	
	A	扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	金属製直尺で測定 d の対角基準点4点とその交点の計5点を測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上	
	A	扉体の傾き (p)	±5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)	



摘要

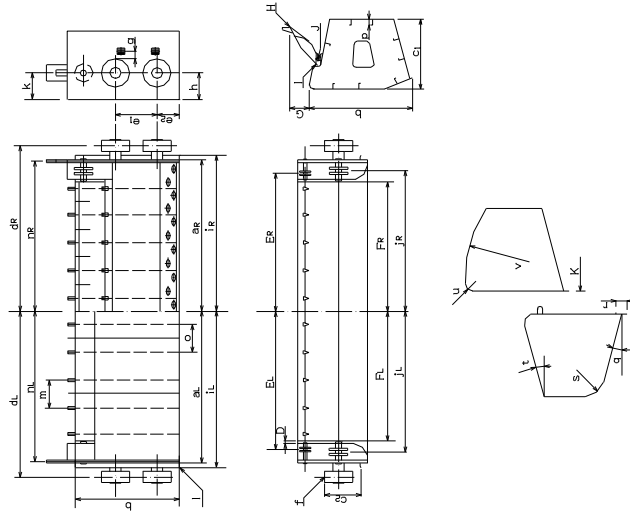
工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(据付)	2. 戸当り	純径間 (a ₁ , a ₂)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		主ローラ踏面 板中心間距離 (b ₁ , b ₂)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 香口高さ(g)	± 5	左右岸及び中央部を鋼製巻尺で測定する。
		A 基準点対角線 長の差(k)	1 0	鋼製巻尺で測定する。 (k = k ₁ - k ₂)
		A 水密面の水平 度(m)	2	水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1 箇所測定する。)
		A 主ローラ踏面 板表面の鉛直 度(n)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1 箇所測定する。)
		A 主ローラ踏面 板表面の平面 度(o)	1 (2)/m	() 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 水密面の鉛直 度(p)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1 箇所測定する。)
		A 水密面の平面 度(q)	1 / m	長さ1 mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。
		B サイドローラ 踏面の鉛直度 (r)	6 (6)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m毎に測定する。(2 m以下の場合は上下各1 箇所測定する。)
		B サイドローラ 踏面の平面度 (s)	2 (3)/m	() 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
		B 底部戸当りの 標高(t)	± 5	長さ1 mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
		B 据付基準線か ら主ローラ踏 面までの距離 (u)	± 5	中央部をレベルで測定する。 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
3. 開閉装置	(5) 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。		



(3) シェル構造ローラゲート

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
1. 扉体 水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	A	扉体の全幅 (a_1, a_2)	± 5 ± 8	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 $a \leq 20m$ $a > 20m$	
		扉体の全高 (b)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	扉体の厚さ (c)	$+10, -3$	中央、左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (e)	$+5, -3$	各ローラ1箇所を金属製直尺で測定する。	
	A	主ローラの支間距離 (d_1, d_2)	± 5 ± 8	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 $a \leq 20m$ $a > 20m$	
		主ローラ中心間距離 (e)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラから扉体下端までの距離 (e ₂)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	各ローラ1箇所を金属製直尺で測定する。	
	B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各1箇所を金属製直尺で測定する。	
	A	主ローラ中心からスキンプレットまでの距離 (h)	± 5	上下左右各1箇所を金属製直尺で測定する。	
	B	水密幅 (i_1, i_2)	± 5 ± 8	鋼製巻尺で高さ2m毎に測定する。 (2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
		吊金物(シーブ)中心間距離 (j_1, j_2)	± 5 ± 8	1箇所を鋼製巻尺で測定する。 $a \leq 20m$ $a > 20m$	
	B	吊金物(シーブ)中心とスキンプレット間の距離 (k)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	底部の曲がり (l)	± 5	レベルで5m毎に測定する。	
	B	スボイラ間隔 (m)	± 10	各々鋼製巻尺で測定する。	
	B	休止フック間隔 (n_1, n_2)	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	ダイヤフラム間隔 (o)	± 10	各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	

測定箇所標準図



摘要

工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
				鋼製巻尺で数箇所抜き取りして測定する。	H：腹板高(m)	
1. 扉体 水筒製備 1. 河川・水路用水筒製備 (3) シェル構造ローゲート(製作)	A	水平桁の高さ (p)	$H < 0.5$	鋼製巻尺で数箇所抜き取りして測定する。	H：腹板高(m)	
		端桁の高さ (p ₂)	$0.5 \leq H < 1.0$			
	A	底面板の傾斜角度 (q)	$+0.3^\circ, 0^\circ$	2箇所を角度ゲージで測定する。		
	A	ゲートリップの長さ (r)	± 2	2箇所を金属製直尺で測定する。		
	A	底面板と背面板の交点部の曲率半径 (s)	± 10	2箇所を曲げ型ゲージで測定する。		
	A	頂板の傾斜角度 (t)	$+0.3^\circ, 0^\circ$	2箇所を角度ゲージで測定する。		
	A	頂板とスキンプレートとの交点部の曲率半径 (u)	± 10	2箇所を曲げ型ゲージで測定する。		
	A	円弧形状頂板の円弧半径 (v)	± 10	3箇所を曲げ型ゲージで測定する。		
	A	起伏部測部と下段扉整流板の間隔 (D)	± 3	(2段扉の場合) 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	起伏扉品物(シープ)中心間隔 (E ₁ , E ₂)	± 5	(2段扉の場合) 1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	起伏部扉体全幅 (F _L , F _R)	$a \leq 20m$	± 5	(2段扉の場合) 1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
			$a > 20m$	± 8		
	A	起伏部扉体高さ (G)	± 5	(2段扉の場合) 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	起伏部越流端の真直度 (H)	± 5	(2段扉の場合) レベルで2m毎に測定する。		
	A	起伏部の下段扉側水密部の真直度 (I)	4	(2段扉の場合) レベルで2m毎に測定する。		
	A	起伏部ヒンジ軸の真直度 (J)	4	(2段扉の場合) レベルで軸毎に測定する。		
A	スライド式2段扉の扉間水密部の平面度 (K)	3	(2段扉の場合) 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。			

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローゲート(製作)	2. 戸当り	主ローラレール桁高さ (a)	+5, -3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		主ローラレール踏板の幅 (a _v)	± 2 $0.5 \leq B < 1.0$ ± 3 $1.0 \leq B$ ± 4	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。 B: 77φ幅 (m)
	A	主ローラレール踏面中心間距離 (b, b _p)	± 5 ± 8	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	サイドローラレール間距離 (c, c _p)	± 5 ± 8	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	戸溝の幅 (d)	± 3	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラレール踏面と水密板面との距離 (e)	+3, -5	上下各1箇所をノギスで測定する。
	B	底部戸当り中心と主ローラレール踏面距離 (f)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	全長 (g)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	水圧側戸当り高さ (g ₁)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	軽構造部 (g ₂)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	取外し部 (g ₃)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	全長 (h)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	重構造部 (h ₁)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	取外し部 (h ₂)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面板の厚さ (i)	+5, 0	上下各1箇所をノギスで測定する。
	B	主ローラ踏面板の幅 (i _v)	± 2 $0.5 \leq B < 1.0$ ± 3 $1.0 \leq B$ ± 4	上下各1箇所を金属製直尺で測定する。 B: 77φ幅 (m)
	B	伸縮継手の位置 (j)	± 10	鋼製巻尺で測定する。
	A	底部戸当りの真直度 (k)	4	水平基準線からの変位をレベル、金属製直尺で測定する。
	A	底部戸当り平面度 (l)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。

